

倉田 稔名誉教授研究業績

著書

凡例：『 』は、書名、雑誌名。「 」は、作品・論文題名。

- 1 レゾン・デタある 書物形式の 業績

単著

- 『金融資本論の成立』青木書店 1975年。
 『社会経済思想史文献(1)』杉山書店 1980年1月。
 『若きヒルファディング』丘書房 1984年3月。
 『社会経済思想史文献(2)』杉山書店 1985年2月。
 『日本人とヨーロッパ人』杉山書店 1986年。
 『ベーベルと婦人論』成文社 1989年。
 『社会思想史ノート』丘書房 1992年。
 『ハプスブルク歴史物語』日本放送出版協会 1994年。
 『学生と社会人のための文章読本 ― 普通の文を明解に書く方法』丘書房 1994年。
 『現代世界思想史序説 上』丘書房 1995年。
 『マルクス「資本論」ドイツ語初版』成文社 1997年。
 『ウィーンの森の物語』日本放送出版協会 1997年。
 『大塚金之助論』成文社 1998年。
 『社会思想史ノート 続』丘書房 1999年。
 『グローバル資本主義の物語』日本放送出版協会 2000年。
 『外国物語』丘書房 2000年。
 『ハプスブルク・オーストリア・ウィーン』成文社 2001年。
 『小林多喜二伝』論創社 2003年。
 『石川啄木と小樽』成文社 2005年。
 『ハプスブルク文化紀行』日本放送出版協会 2006年。

訳書

- 訳書 A・J・P・テイラー『第一次世界大戦』新評論 1980年。
 編訳書『R・ヒルファディング 現代資本主義論』新評論 1983年6月25日（上条勇とともに）。
 訳書、テイラー『ハプスブルグ帝国』筑摩書房、1987年6月10日。
 訳書 アレクサンダー・シュタイン『ヒルファディング伝』成文社 1988年。

編訳著『ヒルファディング ナチス経済の構造分析』新評論 1992年。
 訳書 オットー・パウアー『帝国主義と多民族問題』成文社 1993年。

2 レゾン・デタある 書物以外の その他の 書かれた 業績
 論文、共著、共訳書、その他、主な物のみ

1968年

論文「一九世紀ドイツ労働運動史の一研究」in:『三田経済学研究』1968年,第2号。
 書評「Fritz Kumpf, Probleme der Dialektik in Lenins Imperialismus-Analyse. Eine Studie zur dialektischen Logik. Berlin 1968. in:『三田学会雑誌』1968年10月号,61巻10号。

1971年

「婦人運動国際文庫」in:『婦人通信』1971年,10月号。

1973年

「『金融資本論』成立史」in:『思想』3月 岩波書店。
 「ヨーロッパ労働運動研究の制度」in:『労働運動史研究』55・56号,1973年9月。
 『社会福祉辞典』誠信書房 数項目執筆。
 「初期マルクスに関する三つの著作」in:『歴史学研究』400号,1973年9月。

1975年

Eduard Bernsteins literalisches Werk (1). in:『人文研究』50輯 1975年10月。
 Rudolf Hilferding. Wiener Zeit. Eine Biographie (1). in:『商学討究』1975年,26巻2号。

1976年

「『金融資本論』の成立』補遺」in:『人文研究』51輯,1976年3月。

1977年

「ヒルファディングの金融資本論をめぐって」in:『歴史学研究』441号,1977年2月。

1978年

「ハプスブルグ帝国と重商主義」in:『三田学会雑誌』71巻5号 1978年10月。
 Rudolf Hilferding. Wiener Zeit. Eine Biographie. (2) in:『商学討究』29巻2号 1978年10月。

1979年

Rudolf Hilferding. Wiener Zeit. Eine Biographie. (III) in:『商学討究』30巻1号 1979年。
 「社会民主党共同行動団の成立」in:『商学討究』30巻3号,1979年12月。

1981年

Die Entstehung vom Hilferdings Finanzkapital. in:『人文研究』62輯,1981年12月。

1982年

記事 [国際学会] in:『経済学史学会年報』20,1982年。

1984年

「ジノヴィエフ演説」(1) in:『人文研究』67輯,1984年3月。

1986年

「ベルンについてのレーニン」in:『人文研究』71輯,1986年3月。

1987年

エッセー「本の買い方」in:『学園だより』66号。

1988年

「中央ヨーロッパ論」 in: 共著『国民国家の統合と分裂』北樹出版 1988。
 訳 [ヒルファディング] 「経営内の奴隷制」 in: 『マ・エ・マ』 No.4, 7月。

1989年

「1914年のレーニン、2つのエピソード」 in: 『人文研究』 77輯 3月。
 「『帝国主義論』の諸問題」(1) in: 『商学討究』 40巻1号 1989年7月。
 「小林多喜二『蟹工船』読者感想」 in: 『人文研究』 78輯 1989年8月。
 訳, [ヒルファディング] 「アメリカの実験」 in: 『マ・エ・マ』 No.7, 1989年7月。

1990年

「島田正策小伝」 in: 『人文研究』 79輯 1990年3月。
 「国民所得世界1の謎!？」 in: 『ウイ・ノン』 5月 91号。
 「アメリカの日本たたき」同9月 92号。
 「土地」同12月 93号。
 書評, 西川正雄『第一次大戦の社会主義者たち』岩波書店 in: 『社会経済史学』第56巻
 4号 10月。

1991年

「日本経済の構造変化」 in: 『ウイ・ノン』 2月 94号。
 「給料」同3月 95号。
 「米」同8月 97号。
 「ソ連の崩壊」同11月 98号。

1992年

[翻訳] [ヒルファディング] 「銀行資本への降伏」 in: 『マルクス・エンゲルス・マルクス
 主義』 No.15。
 「『若きヒルファディング』補遺」 in: 『商学討究』 42巻4号。
 「後期ヒルファディングの経済学」 経済学史学会大会報告要旨。
 Rudolf Hilferding und sein Leben in der Habsburger Zeit. in: 『商学討究』 43巻,
 1・2合併号。

1993年

Rudolf Hilferding. Aus Wien nach Berlin. in: 『商学討究』 43巻, 3・4合併号 3
 月。
 「ヨシフ・ヴィツサリオノヴィチ・ジュガシヴィリ — 誕生から戦争直前まで」 in: 『人文
 研究』 85輯 3月。
 Rudolf Hilferding. Wiener Zeit. Eine Biographie. Streik. in: 『商学討究』 44巻1
 号。
 「小林多喜二のフェミニズム — 小林多喜二と田口瀧子との愛」 in: 『世界文学』78, 世界
 文学会, 12月15日。

1994年

「ヒルファディングについての2点」 in: 『商学討究』 44巻3号, 1月。
 書評「河野裕康『ヒルファディング 経済政策思想』」 in: 『歴史学研究』 657号。4月。
 「小林多喜二伝 — 多喜二, 庁商へ — 小学校時代から, 庁商時代の前半」(『人文研究』
 87輯)。
 「小樽高等商業学校と渡辺龍聖初代校長」 in: 『商学討究』 44巻4号。
 「小樽高商の先生たち」 in: 『商学討究』 45巻1号。
 「小林多喜二伝 庁商時代後半 3」 in: 『人文研究』 88輯。

「経済学者 野呂栄太郎」 in: 『商学討究』 45 卷 2 号。

1995 年

「小樽高商入学の小林多喜二」 in: 『商学討究』 45 卷 3 号。

「渡辺龍聖」 in: 『学園だより』 第 98 号, 3 月 20 日。

「小林多喜二伝 — 拓銀就職」 in: 『人文研究』 89 輯, 3 月。

「小林多喜二の小樽高商卒業」 in: 『商学討究』 45 卷 4 号, 3 月。

「小林多喜二の恋」 in: 『人文研究』 90 輯, 8 月。

「黒滝正昭教授の新しいヒルファディング研究」(東北大学『経済学』第 57 卷第 2 号。通巻第 200 号)。

「ポスト・マルクス研究の新たな可能性」 in: 『社会思想史研究』19。社会思想史学会 1995 年。

「小林多喜二伝」(『国文学年次別論文集』平成 5 年版近代分冊, 朋文出版, 学術文献刊行会, 5 月)。

1996 年

「小樽高商の第 2 期」 in: 『商学討究』 第 46 卷第 2・3 号合併号, 2 月。

「大正時代の小林多喜二の評論活動と彼の思想」(『商学討究』 46 卷 4 号, 3 月)。

「民主主義的中央集権制度」(『商学討究』 47 卷 1 号)。

「大正終わりの多喜二」(『人文研究』 92 輯)。

書評「黒滝正昭『ルードルフ・ヒルファディングの理論的遺産』」(『社会思想史研究』 20 号 社会思想史学会 1996 年 9 月)。

1997 年

「小樽高商軍教事件 上」(『商学討究』 47 卷 2・3 合併号 1 月)。

「昭和の初めの小林多喜二」 in: 『人文研究』 93 輯, 1997 年 3 月。創立 85 年記念号。

「レンナー」(共著『民族問題 — 現代のアポリア』ナカニシヤ出版, 京都, 1997 年 4 月 25 日)。

「小樽高商軍教事件 下」(『商学討究』 47 卷 4 号 3 月)。

「USPD とヒルファディング外伝, 主に 1918 年まで」(『商学討究』 48 卷 1 号, 8 月)。

「小林多喜二の昭和時代, 拓銀時代」(『人文研究』 94 輯, 8 月)。

「小樽商大図書館所蔵, マルクス『資本論』第 1 卷ドイツ語初版について」(『緑丘』82 号)。

「最近の小樽商大図書館および初代校長渡辺龍聖先生」(『おたる緑丘』No. 8, 11 月)。

書評, 土井大助『小林多喜二』汐文社; 書評, 土井大助『青春の小林多喜二』光和堂(世界文学会『世界文学』No.86, 1997 年 12 月)。

1998 年

「小林多喜二と社会科学研究会」(『商学討究』 48 卷 2.3 号, 1 月)。

「不在地主 — 磯野小作争議 上」(『商学討究』 48 卷 4 号, 3 月)。

「ルードルフ・ヒルファディングの経済理論と思想の転換 — 『金融資本論』から「ドイツ経済批判」・「歴史的問題」へ —」 in: 『東京経大会誌 — 経済学 —』207 号, 1998 年。

記事「多喜二とは」(『北海道新聞』夕刊 1 月 19 日)。

「ウィーンの森の物語」(『緑丘』1998 年 3 月)。

「小林多喜二論 小樽商科大学図書館所蔵小林多喜二の本 上」 31。(『月刊ラブおたる』1998 年 4 月)。

「総選挙と三・一五」(『商学討究』 49 卷 1 号, 7 月)。

「昭和初期, 多喜二の文学上の営為」(『人文研究』 96 輯)。

「小樽の三・一五事件および補遺 小樽高商軍教事件 続」『商学討究』49巻2・3合併号 12月。

1999年

論文など

「伊藤整と小林多喜二の全集未収録作品、および大正時代末の多喜二の文学」in:『人文研究』97輯。

「オーストリアのファシズム時代について」in:『商学討究』49巻4号。

「オーストリア・ハプスブルク帝国の非啓蒙的絶対主義の経済政策——皇帝フランツ2世と皇帝フェルディナントの時代の経済と社会」(『商学討究』50巻1号)。

「多喜二が「東俱知安行」を書く頃」in:『人文研究』98輯。

小品

「書物と人の女性史 4。福沢諭吉と『新女大学』」(絵本センター『アポリア』8)3月13日。

「書物と人の女性史 5。フリードリヒ・エンゲルスと『家族・私有財産および国家の起源』」(絵本センター『アポリア』9)9月。

2000年

論文など

「多喜二と「三・一五」のころ」in:『人文研究』99輯。

「不在地主——磯野小作争議 下」in:『商学討究』50巻2・3合併号。

「現代世界思想史 上」への補遺、および戦後日本社会と思想」in:『商学討究』50巻4号。

研究ノート「『グローバル資本主義の物語』について」in:『商学討究』51巻1号。

「『蟹工船』へ」in:『人文研究』100輯 9月。

小品

「ヴェルディのオペラ「エルナーニ」」in:『言語センター広報 Language Studies』8号。

「民主文学について」in:『群来』再刊6, 民文小樽 3月。

「ウィーンの森の物語」付記, 同。

「ヒルファディング」in:『政治学辞典』弘文堂。

「金融寡頭体制」in:同。

「ヒルファディング」in:経済学史学会編『経済思想史辞典』丸善。

「ヴィクトル・アドラー」in:同。

「大塚先生の授業のさいのペーパー」『大塚会会報』6月。

「『グローバル資本主義』」(『緑丘』88号, 8月23日)。

書評 エーリッヒ・ツエルナー『オーストリア史』(『週間読書人』10月27日)。

2001年

論文など

「学問とは何か。社会科学とは何か」(『商学討究』51巻2・3合併号, 2001年1月)。

「小林多喜二と『不在地主』のころ」in:『人文研究』101輯。

「『現代世界思想史序説 上』への補遺(2) 外国の部」(『商学討究』51巻4号)。

「オーストロ・マルクシズム」(『茨城大学 政経学会雑誌』71号, 3月)。

草稿「小樽商科大学創立90周年記念 小樽商科大学附属図書館所蔵の貴重図書展示資料解説書」小樽商科大学附属図書館 3月。

「多喜二の拓銀解雇から上京まで」(『商学討究』52巻1号)。

「話し方」in:『人文研究』102輯。

- 共訳書『バウアー 民族問題と社会民主主義』御茶の水書房 7月。
 「近世から現代へ 世界の政治・経済・社会の変遷」(『緑丘』90号)。
 「『グローバル資本主義の物語』」(『経済学史学会ニュース』18号, 2001年)。
 「小林多喜二の東京時代」in:『商学討究』52巻2・3合併号, 2001年 12月。
 「20世紀マルクス主義」(『マルクス・エンゲルス・マルクス主義研究』38号, 11月)。

小品

- 書評「島崎隆『ウィーン発の哲学』」未来社(『図書新聞』2月24日)。
 「ウィーンにて、およびウィーンでヒルファディングを求めて」(『言語センター広報 Language Studies』9号, 2001年3月)。
 「小林多喜二伝について」(『読本 秋田と小林多喜二』同刊行会 4月)。
 「大塚金之助先生の母方の系譜,その他,伊藤野枝について」(『大塚会会報』28号 8月)。
 「リレー・エッセイ ハプスブルク・オーストリア・ウィーン」成文社ホーム・ページ。

2002年

論文

- 「多喜二の逮捕 そしてスパイ」(『商学討究』52巻4号, 2002年3月)。
 「蟹工船 および 漁夫雑夫虐待事件」(『商学討究』53巻1号, 2002年 7月)。
 「多喜二の死後」(『商学討究』53巻第2・3合併号, 2002年12月)。
 「ニカライー・アレクサンドロヴィチ・ニューフスキー」(『人文研究』103輯, 2002年3月)。
 「小林多喜二伝 補遺1」『人文研究』104輯, 2002年9月。
 「マルクス主義」(別冊『環』5, 藤原書店, 12月30日)。
 共著『小樽高商の人々』北海道大学出版会 3月。

小品

- 「今井義夫先生」(『国際文化交流に生きて』三友社 2002年)。

2003年

論文

- 「小林多喜二虐殺とその時代」(『歴史地理教育』2003年2月)。
 「世界経済および、『グローバル資本主義の物語』2」(『商学討究』53巻1号, 2003年3月)。
 「小樽高商初代校長 渡辺龍聖 続伝」(『商学討究』54巻1号, 2003年7月)。
 「伊藤整『若い詩人の肖像』のフィクション性」(『人文研究』105輯, 2003年3月)。
 「外国物語(続)」(『言語センター広報 Language Studies』11号, 2003年3月)。
 「『現代世界思想史』中巻, 1, — 20世紀中葉, アメリカの内外」(『商学討究』54巻2・3合併号)。
 「小林多喜二伝 補遺2」(『人文研究』106輯, 2003年9月)。

小品

- 共筆「多喜二書き込み発見 総結果報告」11月。

2004年

論文

- 「小林多喜二伝 補3 および『小林多喜二伝』索引」(『商学討究』54巻4号)3月25日。
 「ヒルファディングと研究」(『商学討究』55巻1号)。
 「現代日本社会論」(『商学討究』55巻2・3合併号)12月。
 「ネーデルラント・プロテスタント絵画 — その派としての確立のために」(『人文研究』107輯)。

「イギリス文化史ノート 2」(『言語センター広報 Language Studies』12号, 1月)。
 「多喜二の恋」(『モシリヤ』3号, 2月20日), 小林多喜二を語るついでい・くしろ, 釧路。

小品

「私の『小林多喜二伝』」(『緑丘』95号, 2月24日)。
 「シンポジウムを聞いて」(白樺文学館 多喜二ライブラリー『小林多喜二生誕100年・没後70周年記念シンポジウム記録集』東銀座出版社 2004年)。
 「17世紀ウィーン」解説, 帝国書院「世界史のしおり」6月号(『明解世界史A最新版』p.88-89, 『新編高等世界史B新訂版』帝国書院, p.204-205)。

2005年

論文

「ヘンリー8世 および トーマス・モア」(『言語センター広報 Language Studies』13号, 1月)。
 「石川啄木と小樽」(『人文研究』109輯)。
 「小林多喜二伝 補遺 4.」(『商学討究』56巻1号)。
 『蟹工船』(『国文学 解釈と鑑賞』至文堂 2月号)。
 「石川啄木と小樽」成文社 3月25日。
 「日本軍のビルマでの戦争」(『商学討究』56巻2号)。
 「トロイ戦争」(『人文研究』110輯)。

小品

「ヨーロッパ昔がたり」(『らぶおたる』8月から継続中)。
 「石川啄木と小樽」(『緑丘』98号, 8月)。
 「大塚金之助伝にかんする小レポート1」(『大塚会会報』32号2005年5月)。
 「大塚金之助先生の慶大大学院での講義資料」(同)。

2006年

論文など

「18世紀ドイツ文化」(『言語センター広報 Language Studies』14号)。
 「小林多喜二の小樽時代, および最近の研究文献」(『いま中国によみがえる 小林多喜二の文学』東銀座出版社 2006年2月)。
 「多喜二書き込み, 多喜二伝 補遺 5」(『商学討究』56巻4号。3月)。
 「小林多喜二と小樽」(『文学』としての小林多喜二(『国文学解釈と鑑賞』別冊) 至文堂 平成18年9月)。
 「イエスとキリスト教」(『人文研究』112輯)。

小品

『ハプスブルク文化紀行』(『三田評論』8・9月合併号)。

2007年

「札幌の啄木 および多喜二の最近の研究」(『群来』)。
 「異文化コミュニケーション」(『言語センター広報 Language Studies』15号, 2007年1月)。
 「現代世界政治 — アメリカと北朝鮮」(『人文研究』113輯)。
 「小樽経済史 — 明治時代」(『商学討究』57巻4号)。

経歴

日本社会事業大学非常勤講師。
北海道大学文学部・教養部・非常勤講師。
東北大学大学院経済学研究科博士課程特別講義。
大東文化大学文学・大学院・学部特別講義。
千葉大学法経学部非常勤講師。
札幌大学外国学部非常勤講師。
北海学園大学大学院英米文学研究科非常勤講師。
藤女子大学大学院非常勤講師。
札幌学院大学非常勤講師。

学会発表 全国規模のみ

経済学史学会（松山商大，京都産業大，武蔵大）。
社会思想史学会（東京）。
「小林多喜二の小樽時代，および最近の研究文献」中国 小林多喜二 国際シンポジウム（研究会）11月12日 河北大学外国語学院。

経済学史学会会員 2007年まで。
社会思想史学会会員。